

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年3月4日

ニュース解説：ワクチン接種でロングコロナ若干軽減

【松崎雑感】

コロナ感染の後遺障害（ロングコロナ）は、感染者の実数が多いだけに、発症率が数%としても、数百万人単位の人々が仕事や通常の生活を失う重大な状態です。コロナワクチンの追加接種がある程度ロングコロナを軽減するというデータです。ロングコロナの有効な治療法が見つからない時点では、選択すべき対処法と思われます。

ニュース解説：ワクチン接種でロングコロナ若干軽減

Taylor L. Covid-19: Vaccination reduces severity and duration of long covid, study finds. *BMJ*. 2023;380:p491. Published 2023 Mar 1. doi:10.1136/bmj.p491

COVID-19ワクチンがロングコロナの症状と継続期間を減らすという研究がBMJ Medicineに発表された。この論文は、ロングコロナを減らすためにCOVID-19ワクチンの接種が有効であるという証拠を追加したと著者は述べている。

イギリスでCOVID-19感染後3か月以上症状が続く人々は10人に1人と推計されている。息切れ、筋肉痛、ブレインフォグ、頭痛などにより通常の就業と社会生活を送ることが難しくなる人々も少なくない。

アメリカでは200～400万人がロングコロナのために職を失い、労働力損失は年間1700億ドルから2300億ドルにのぼると推定されている。COVID-19ワクチン接種でロングコロナが軽減するかどうかを明らかにするためには、ワクチン未接種群との比較調査が必要だが、ワクチン接種が進んだ現在、未接種群を設定することが困難であり、調査が進まなかった。

今回の調査結果

ソルボンヌ・パリ・シテ疫学・統計研究センターのベト・ティ・トラン氏のチームは、**ロングコロナを発症したあと、COVID-19ワクチンを接種した人々と接種しなかった人々の経過を比較する調査を行った。**

対象者はフランスのComPaRe research programmeに参加していた455名のロングコロナ患者で、ファイザー、アストラゼネカ、モデルナワクチンを1回投与されたグループと、ロングコロナ発症後COVID-19ワクチン投与を受けなかった455名のグループである。

年齢、性、基礎疾患、ロングコロナ重症度などを比較した。60日ごとに問診票を使ってロングコロナ症状のスコアを算定した。

その結果、**ワクチン接種群でロングコロナの重症度と継続期間が若干低下していたことが分かった。**

120日後のロングコロナ症状の個数は、接種群で13個、未接種群で14.8個だった。接種群でロングコロナ症状が消失した割合は、未接種群の2倍となっていた。

ワクチン未接種群の方が、ロングコロナ症状が日常生活と就労に大きな障害をもたらしていたと答えていた。ロングコロナ重症指数（60点満点）は、ワクチン接種群で24.3、未接種群で27.6だった。

証拠が増えつつある

この調査のリミテーションは、感染株がデルタあるいはオミクロン以前であること、平均年齢が47才で、80.5%が女性であるため、他の性、年齢層あるいは感染株について同じことが言えるかどうかは不明である。

しかし、ワクチン接種がロングコロナ軽減に何らかの効果があるという証拠が加えられた。

著者らは「現在でも数百万人がロングコロナとなっており、今後さらに増える恐れがある。COVID-19感染歴がある場合、COVID-19ワクチン接種を行うことが望ましい」と述べている。

BMJ Medicineに5か国16調査のレビューが掲載されたが、ワクチン接種がロングコロナ軽減をもたらしていたという同様の結論が述べられている。

ノースブリストルNHSトラストのフランシス・エドワーズ氏とブリストル大学のファーガスハミルトン氏は「ワクチンがロングコロナ軽減に役立つだろう」と語っている。

ブリストル大学呼吸器専門家キャサリン・ハイアムズ氏は「ロングコロナ発症後にCOVID-19ワクチンを接種すると、症状の重さと継続期間を減らす効果があることが今回の研究で明らかになった」と述べている。